

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日： R6年 3月22日

事業所名：すこやかキッズランド神戸北

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	定員数にあったスペースを確保している。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘わからない’‘どちらともいえない’が少数あり。	活動に応じて机の配置を変えるなど引き続き環境整備を行う。
	2 職員の適切な配置	児童発達支援管理責任者が中心となり安全を第一に適切な配置を行っている。	全員‘はい’との返事を頂く。	子どもの動きに対して臨機応変に職員の配置を変えている。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	ワンフロアで全体が見渡せ、視覚からの刺激が少なく落ち着いて生活できるシンプルな作りになっている。	多数‘はい’との返事を頂いているがわからないが少数あり。	毎年利用者に合わせて設備の整備をしている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃と食前食後の机の消毒を行っている。	多数‘はい’との返事を頂いているがわからないが少数あり。	引き続き清掃と消毒を行っていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的な職員への聞き取りを行い、問題定義等があれば話し合いを行っている。		職員からの聞き取りの仕方など改善できる点は改善していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部評価はないが同じ系列の事業所との連携を取っている。		第三者による外部評価はないが子どもたち、保護者の方が安心して利用できるよう業務内容の改善、向上に努める。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	虐待防止や送迎における安全等の常務改善の為の研修は定期的実施されており、当日参加出来なかった職員に対しては後日個別に実施している。		研修の機会を確保できるように努める。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	必ず本人や保護者への聞き取り及び職員間での話し合いを行い、個々のニーズや課題を分析し、計画書に反映している。		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々の発達段階を適切に把握し、個別・集団活動それぞれの強味を組み合わせた計画書の作成を行っている。		引き続き、個々の発達段階に合わせた、楽しそう、やってみたいと思えるような個別支援計画書を作成していきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	本人及び家族のニーズと事業所での様子や課題を項目に盛り込んでいる。		
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画書作成者だけでなく、すべての職員が計画書を閲覧できる状況にしており、ないように沿った個々に必要な支援を実施している。	全員‘はい’との返事を頂く。	管理者を中心に職員が同じ方向を向いて支援できる体制を継続していく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	現場の意見と安全性、継続性を組み込んだプログラムを考案・実施している。		全職員から意見を出しやすい環境作りをこれからも徹底していく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	職員の配置等を考慮しながらも利用日や利用時間帯の希望聞き取りを行うことで、子どもや保護者の意向に沿った対応を図っている。		引き続き保護者のニーズに沿った支援を心がける。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	曜日や時間帯によって固定してしまうのではなく、日々変化する子どもたちの状況を把握した上で流動的なプログラムを取り組んでいる。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘わからない’‘とどちらともいえない’が少数あり。	引き続き、ソーシャルスキル、運動遊び、ルール遊びなどたくさんのプログラムを行っていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	送迎前に1日の流れや利用する子どもについて注意点等の情報を共有し、そこに参加できない職員に対しても同じ内容を共有している。		一日の流れを職員と共有し役割分担や職員の配置を伝えるようにしている。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後には必ず報告する体制を整え、改善点があればその日のうちに問題解決を図ると共に、職員間の連絡ノート等にて情報の共有を図っている。		引き続き職員からの聞き取りを徹底し、次の療育に生かしていく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	一日の活動内容や健康状態、食事摂取量等の情報を個別に記録し、気になる点に関しては職員間で話し合いの時間を設け、検証改善を行っている。		記録者は責任を持って記録することに加え、管理者による各記録に不備や漏れの確認を都度行うと共に月末のチェックしていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	原則6カ月に1度(子どもの状態が変わればその都度)の頻度でモニタリングを実施し、それを沿って支援計画を見直し、作成している。		保護者の協力もお願いしながら、引き続き子どもの状態やニーズに沿った計画書の作成に努める。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	現状ほとんどの利用者がセルフプランの為、担当者会議は開催されていない。開催時には児童発達管理者が予定を調整し積極的に参加している。	引き続き可能な限り会議に参加していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当なし	該当なし
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当なし	該当なし
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	情報共有の必要がある状態では、家族の同意の下、各関係機関へ情報提供を協力的に実施している。	個人情報の取り扱いには十分配慮しながら、今後も必要に応じて情報提供の協力を行っていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	該当なし	該当なし
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現在は実施していない。	現在は実施していない。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在は実施していない。	実施しておりません。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在は実施していない。	実施しておりません。	現在は実施していない。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用開始前の見学時や契約時に加えて、制度の改正時や保護者からの問い合わせがあれば担当の職員が口頭と書面にて説明を実施している。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘どちらともいえない’が少数あり。	利用開始時だけでなく、必要におおじて理解いただけるよう丁寧に説明していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画書を提示しながら、分かりにくい専門用語は使わず説明を行っている。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘どちらともいえない’が少数あり。	今後も丁寧な説明を心がけていく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	普段の関わり方や対応方法について電話相談及び保護者からの依頼があれば時間を設定し、来所していただいて相談できる旨も随時発信している。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘わからない’‘どちらともいえない’が少数あり。	全体へのペアレント・トレーニングは行っていないが個々で相談、助言は引き続き行う。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や日々の送迎時に情報のやりとりを実施しており、それだけで不十分であれば電話等において子どもの状態に対しての共通理解を深めている。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘どちらともいえない’が少数あり。	今後も共通理解が進むよう努め、課題に対してどのような活動をしたのか伝えていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時や電話にてその都度対応しており、保護者からの依頼があれば時間を設定して、来所していただいて相談できる体制を整えている。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘わからない’‘どちらともいえない’‘いいえ’も少数あり。	引き続き、見学相談、電話相談が出来ることを周知していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない。	実施していないので‘いいえ’ ‘わからない’ が多数。	現在父母会等の実施予定はない。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情に対する体制は契約時の重要事項説明書に記載及び説明しており、苦情があった際には担当者が対応する体制を整えている。	多数‘はい’との返事を頂いているが‘わからない’‘どちらともいえない’が少数あり。	引き続き苦情があった際は迅速かつ丁寧に対応する。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	日々変化する状態について、連絡帳での伝達と送迎時のやりとりで意思疎通が図れるよう努めている。	全員‘はい’との返事を頂く。	引き続き情報伝達のに努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	会報は発行していないが、定期的に活動の写真や動画を配布しており、送迎時に口頭で伝えるとともに、連絡帳等を活用し日々の活動情報の発信を行っている。	会報を発行していないので「わからない」が多かったが、「定期的に写真を頂いています」のコメントを頂いた。	連絡帳や写真での情報発信と共に、行事予定を含め、今後も出来る限りの情報発信に努める。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の扱いについての同意書を頂いたうえで鍵付きの書庫に保管をし注意している。	全員「はい」との返事を頂く。	契約時には必ず説明するとともに、個人情報の管理については、その都度保護者の方へ確認する等、細心の注意を払う。また書類等の管理も徹底する。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルは作成し、職員などは都度周知しているが保護者への周知は徹底できていない。	多数「はい」との返事を頂いているが「わからない」とどちらともいえないが少数あり。	マニュアルの定期的な見直し、更新を行うと共に、保護者への発信も随時行っていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回避難訓練を実施し、実施の際には連絡帳や口頭で保護者に報告している。	「出来ている」「わからない」が半数ずつ	災害発生時に落ち着いて行動出来るよう計画に沿った訓練を実施するとともに、保護者への発信も随時行っていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	入社時に虐待防止をはじめとする研修を行い、月に一度、虐待についてのチェックリストを活用し一人ひとり虐待がないように意識付をしている。		危険意識を高く持ち、今後も定期的な研修と毎月のセルフチェックを実施していき、常に改善や対応方法を見つめ直す習慣をつける。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束を実施した事例はないが、この事例については個別支援計画書にも記載し、保護者にも十分説明し理解していただけるよう説明をしている。		引き続き全体での会議にて慎重に決定し全職員が周知して同じ対応が図れる体制を維持するとともに、保護者への説明と計画書への記載を徹底する。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	医師の指示書はないが保護者からの申告により、職員が情報を共有し安全に配慮している。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事業所内だけではなく、別の事業所で発生した事例についても事例集に記載し、事例の周知および再発防止の徹底を図っている。		